



## 児童響かす感謝の太鼓

岩国の柱野小 11月21日「フェスタ」で披露

(この記事はフェスタの開催前のものです。)



この写真はフェスタ当日のものです。

### 日々の見守り 思いも発表

地域への感謝を伝えようと、岩国市の柱野小の全校児童12人が11月21日、同小である「ふれあいスポーツフェスタ」で、30年間受け継がれる「柱野太鼓」を披露する。6年生3人は日々の見守ってくれている住民への思いを発表。山あいの小規模校の子どもたちが地域に元気を届ける。

柱野太鼓は1991年に表現力を養う目的でスタート。4種類の和太鼓と大型の竹筒を力強く打ち鳴らし、音を重ねていく約5分間の演目だ。児童は4月から週1回、手にまめをつくりながら練習している。

昨年、創立140周年を迎えた同小は、市中心部から南西約7kmの山間部にあり、地域は過疎化が進む。85年に86人いた児童数も2000年に降は20人前後で推移。今年、来年は新入生がいない。

それだけに学校運営に住民が関わるコミュニティ・スクールでの取り組みが活発で、地域の文化財や災害の歴史、昔遊びなど幅広いテーマを住民から教わる。今

年4月には、「熟議」を開き、柱野の現在や将来を語り合った。地域行事もなくなる中、フェスタは各世代の交流を深めようと、同小や学校運営協議会がつくる実行委が企画。7回目の今回は、6年の越晴真さん、竹村美都さん、浜重希亜さん11人(12)が6年間の思い出を初めて発表する。3人は「登下校の見守りや運動会での大声援など、地域の人たちがいつもそばにいて、数え切れないくらい支えられている。しっかりと感謝を伝えたい」と当日を心待ちにしている。



中国新聞 令和3年11月16日(火)より  
(写真は新聞のものと異なります。)

# 由宇中学校区(由宇小・由西小・神東小・由宇中) 岩国市教育委員会指定 岩国市小中一貫教育に係る確かな学力推進研究事業(二年度) 研究発表会

【由宇中学校区共通研修テーマ】

自ら学び続ける由宇っ子の育成～「伝える力」を育むための支援のあり方を探る～

【公開授業】 由宇中学校 1年B組 社会「執権政治と承久の乱」



学校運営協議会委員も  
授業参観



グループ学習の場面



同時に展開している由宇小1年  
の国語の授業を由宇中廊下の  
モニターで参観できるシステム



右上同様に、由宇小4年の社  
会の授業をモニターで参観



右上同様に、由宇小6年の算  
数の授業をモニターで参観



全体会 守山教育長あいさつ



研究発表  
由宇中 北野研修主任



講話 山口大学教育学部 佐伯英人教授  
「由宇中学校区の小中一貫教育に関する実践研究について」



閉会あいさつ  
由宇中 片山校長

## 【参加者の感想】

- ・小中一体となった取組「つながる」をキーワードにすばらしい取組です。大いに参考にしたいと思えます。4つのキャンパス、1つの学校ですね。
- ・子どもの成長が幼保小～中までみられ、取組も明確にされていることから、地域の人も声をかけやすく協力しやすいと感じました。
- ・物理的に離れていても生徒から児童へ伝える交流の場があるなど、活発に活動されている。
- ・地域の財産を有効に生かすとともに、新たに発見し地域を活性化する取組になっていると感じました。

※ 総勢140名を超える、盛大な研究発表会となりました。